ハロウィンの日。利用者、職員、理事長も、みんな一緒に、「trick or treet !!」

目次

・第 15 回記念大会　のびのび音楽祭 …… 2
・研修報告 …… 3
・内部監査／みずほ福祉助成財団助成金 …… 4
・教材ＤＶＤライブラリー／永年勤続表彰 …… 5
・「命の学校」中間報告 …… 6
・職員の語らい／施設長リレーエッセイ …… 7
・施設だより …… 8

編集・発行

社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804
那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
TEL.098-884-3173（代）FAX.098-882-5688

第15回記念大会！　のびのび音楽祭♪

平成14年に初開催された当法人主催の「のびのび音楽祭」が今年度で第15回の節目を迎えました。開催当時の資料に目を通していると、プログラム構成や選曲等、時の流れを感じる一方で、音楽で自己表現することの楽しさや、創意工夫、人と人との交流が生み出す喜びはずっと変わらないものであることを感じさせてくれます。

11月21日に、よみたん救護園・地域交流ホールで開催された「第15回のびのび音楽祭」には、法人内7施設の利用者127名、職員90名が参加。ゲストに我如古盛健氏率いるケントミファミリー、ボランティアに学校法人大庭学園ソーシャルワーク専門学校（諸見里安知校長）で介護・福祉を学ぶ学生をお迎えし、260名余の感動と喜び、笑顔が会場いっぱいに溢れました。ご協力くださった全ての皆様へこの場をお借りし感謝申し上げます。

参加者の声

- はじめての参加だったけど、たのしかったよ～！
- すごくおもしろかったです。
- 歌が全部わかりました。知っている歌でたのしかったです。
- 大きな声で歌えて面白かったです。
- 優勝、やった～ !!!

息のあった演奏

カチャーシーも盛り上がりました

今年の優勝は…いしみね救護園!!

ボランティアのご協力をいただきました

ボランティアに参加してみて…

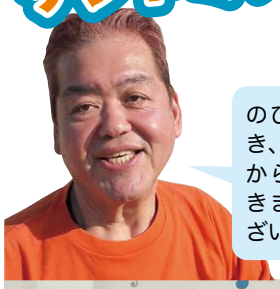
いろんな施設の方とコミュニケーションを図ることができました。利用者の方々や、運営スタッフの方々が一体となってこの音楽祭を盛り上げようと頑張っている姿にとても感動しました。舞台袖でのボランティアは、難しかったけれどとても勉強になりました。

のびのび音楽祭に参加できて、いろんなことが学べたのでよかったです。みんなが心を一つに演奏している姿に感動しました。

いろんな施設の方が来ていて、その賑やかさや、皆さんが楽しんでらっしゃる姿が見られて楽しかったです。

演奏も一緒に楽しみました。

記念大会特別ゲスト ケントミファミリー 出演！



のびのび音楽祭に参加でき、ぼくたちも、皆さんから勇気、元気をいただきました！ありがとうございました。

素敵な演奏ありがとうございました。

研修報告

成年後見制度活用研修

障害者支援施設
あけぼの学園
サービス管理責任者
宮里（みやざと） 幸代（ゆきよ）

成年後見人制度活用研修に参加して

講師による成年後見人の市長申立の実績について報告があった。沖縄市においては県内でも那覇市など他の市町村を大きく引き離して市町村申し立て件数が多いという。背景として同市には成年後見人制度利用のための専属職員がいることが大きい。宮古島市は他の職種との兼任であるため、当施設から依頼して一年以上経過しているケースがある。また、出身地が異なる等で二つ以上の市町村が関わる場合は、どちらが申し立てをするかでさらに時間がかかる等、いずれにしても、困っている利用者の為に粘り強く何度もかけあうように、と力説されていた。その他、成年後見人の仕事の範囲を確認し依頼できることや制限について学んだ。テキストより具体的な例を確認できた。また事例検討では、後見人をたてて家族の負担感を和らげたことで、以前よりも利用者との関わりがスムーズになり、関係性がとても良くなった例の紹介があった。希望の見える助言が頂けただけで大変有意義な研修であった。

中間管理職研修

特別養護・養護老人ホーム
八重山厚生園
介護課長 古見（ふるみ） 嘉浩（よしひろ）

中間管理職研修に参加して

7月25日部下の育成と指導の基礎的、具体的なノウハウを学び、職場風土を改善しサービスの質の向上に繋げる事を目的に、大庭学園ソーシャルワーク専門学校の校長、諸見里安知氏を講師に中間管理職研修が行われました。

研修では、カラーボールを使ってキャッチボールから始まり、グループ対抗のゲームなどで緊張もほぐれ楽しさとコミュニケーションをとることで共通の目標を持ち行動する事の大切さを学びました。

また、人の話を聞く時は「すなお」に聞いて会話の中から大切な事を見つける、他職員から見て私の表情はいつもどう見えているのか？考えた時、いつも明るく笑顔を心がけないといけないなぁ～と反省しました。

講師の先生のトークは共感する部分も多々あり楽しい研修でした。

内部監査について

毎年全施設（13施設）を対象に、法人監事2名と事務局の職員が施設に出向き、内部監査を実施しています。内部監査の目的は、法令等諸規定の遵守状況、財務報告の信頼性、業務運営の効率性と有効性等の状況を確認し、課題解決のための提言を行い、コンプライアンスの徹底及びサービスの質の向上を図ることにあります。具体的な内部監査の実施については、関係書類の確認や管理職及び担当職員とヒヤリングを行いながら状況の把握に努めています。

内部監査の範囲

①施設運営に係る会議の実施状況
②予算・財務・資産関係
③諸手当認定関係
④個人情報保護関係
⑤利用者預り金関係
⑥利用者支援関係に係る記録

法人監事・公認会計士
友利（ともり） 健太（けんた）

「この事務作業、もっと効率よくできないかな？」

監事の仕事は、「理事の職務の執行を監査する」ことです。理事は、職員の仕事のやり方が法令等に反しないような仕組みをつくる責任があります。私は監事として、どれだけ効率よく法令等に合致した仕組みを作れているか？という点に注目しています。

事業団の理事（役員）や事務局、そして各施設長と管理職の仕事は、現場職員のみなさんが仕事をやり易くすることだと思います。なぜなら事業団の利用者を直接喜ばせることができるのは現場職員に他ならないからです。現場職員は、利用者にサービスを提供する。管理職と施設長は、現場職員がやりがいを持てる職場づくりにしっかり取り組む。法令等を守りながら、現場職員がやりがいを感じられる効率的な仕組みになっているか、更にどのような工夫が必要か、より良い形が作られるように監事として考えていきたいと思います。

事務局経営管理課
出納員
前底（まえそこ） 駿介（しゅんすけ）

内部監査にあたり、経営管理課では主に日々の出納業務・予算管理業務・入札や契約業務・固定資産管理業務が規程通り適正に遂行されているかを見ていきます。中でも、今回特に注視したのが固定資産管理です。取得年月日や償却方法の選択ミス等、固定資産管理台帳登録時に間違いが起きやすいことから、出納員が固定資産台帳へ登録後、会計責任者が登録状況をダブルチェックするよう施設へ求めてきました。台帳登録ミスは過去の決算に遡って影響を及ぼす恐れがあり、より注意が必要になります。

社会福祉法改正により、当法人は平成29年度から「大規模法人における会計監査人の設置義務」が生じ、監査法人による監査を受けています。それに伴い、より精細な業務遂行が求められるようになりました。そのような背景から、今回の内部監査では、ミスは起こりえると仮定したうえで、どう発見し防いでいくか考えるとともに、会計システムの改良も検討課題となりました。

また、指摘をして終わりにせず、事務局と各施設会計責任者・出納員との連携を密にし、協力しながら、今後も透明性のある適正な財務を目指していきたいと思います。

公益財団法人みずほ福祉助成財団
2018年度「社会福祉助成金」助成決定通知書贈呈式

いしみね救護園

平成30年11月26日（月）当園にて贈呈式が行われました。

贈呈式ではみずほ銀行那覇支店　店長　東大介様から、助成決定通知書が交付されました、頂いた助成金はリフト車購入に活用します。当園では近年高齢化や重度化によって車椅子使用者が増え、外出する機会も少なくなっています。そのような中、今回みずほ福祉助成財団様から支援を賜わり、リフト車輌購入のための助成金贈呈をいただくことになりました。これにより受診支援や外出・ドライブにも気軽に活用できると期待しております。多大なる施設へのご理解・ご支援に対し心より感謝申し上げます。

教材DVDライブラリーについて
～活用状況報告～

事務局企画課

平成30年5月からスタートした「教材DVDライブラリー」は、平成29年度第7回経営対策監会議において、「視聴覚教材の導入により職員の研修ニーズに細やかに対応し、人材育成の環境を整える」ことを目的とし創設されました。

職場内研修や新人育成等での活用による学び合う環境づくりや、実践的な技術等を視覚的に的確に伝えることによるサービスの質の向上、人事考課制度における被考課者の個別的課題を解決に向けるなど、さまざまな効果を期待しています。

さて、開設から半年が経過した10月現在の活用状況はいかがでしょうか。分野別での活用状況を見てみると、『福祉職の職業倫理』関連のDVDが最多で9回活用されています。続いて『認知症ケア』が7回、『介護技術』と『障がい特性理解・支援技術』は各4回活用となっています。また、7月に施設からのリクエストにより加わった『身体拘束廃止』分野のDVDは、3ヶ月で5回も活用されており、ニーズの高さが伺えます。今年度事務局主催で開催した「排泄ケア研修」及び「成年後見制度活用研修」もDVD化し、研修参加者が各施設で復命研修を行う際に活用できるよう準備しました。

現在、事務局として感じている課題は「現場のニーズ把握」。日々、直接利用者と向き合い、よりよい支援を目指して切磋琢磨している現場の皆さんが求める研修ニーズを把握し、そのニーズに応えていくこと。あなたが学びたい、知りたい、実践したい、チームと共有したい、そんな研修テーマのDVDを見つけたら、管理職を通じて事務局企画課までご連絡下さい。お待ちしています。

DVDライブラリー活用状況ランキング

DVD利用ランキング（分野別）

1位　福祉職の職業倫理関連
2位　認知症ケア関連
3位　身体拘束廃止関連

施設別利用回数ランキング

1位　名護厚生園
2位　具志川厚生園
3位　宮古厚生園

永年勤続表彰

長きにわたり、福祉の向上に取り組み貢献した事が評価され、その功績へ25名の法人職員が表彰を受けました。今後とも、「利用者本位のサービスの質の向上と経営基盤の強化を図るとともに、広く地域に貢献し、地域の人々に信頼され愛される施設（法人）を目指す一員として、各々の役割を担って参ります。

受賞者

全国社会福祉協議会会長表彰（30年以上勤務）

沖縄療育園　事務長　小橋川　務
宮古厚生園　生活支援課長兼生活相談員　川根直美
宮古厚生園　介護員　石垣愛子

第61回沖縄県社会福祉大会　大会長表彰（25年以上勤務）

沖縄療育園　看護師　冨名腰望
沖縄療育園　介護員　新垣敏浩
沖縄療育園　介護員　渡慶次功
よみたん救護園　介護員　安慶名篤
宮古厚生園　介護員　長濱祐子

（15年以上勤務）

漲水学園　児童指導員　宇座正市
都屋の里　介護員　義間道幸
よみたん救護園　介護員　宮里憲一
よみたん救護園　介護員　仲元浩哉
名護厚生園　介護員　與座里美
具志川厚生園　介護員　大見幸成
宮古厚生園　介護員　大嶺恵子
宮古厚生園　介護員　砂川直美
宮古厚生園　介護員　川田勝美

全国社会福祉事業団協議会大会　大会長永年勤続表彰（20年以上勤務）

事務局　企画課長　野田里子
沖縄療育園　サービス管理責任者　田場貴子
沖縄療育園　介護員　渡久地律子
あけぼの学園　サービス管理責任者　宮里幸代
北嶺学園　介護員　前泊真生
北嶺学園　相談支援専門員　平川亜紀
都屋の里　管理課長　中村亜由美
都屋の里　理学療法士　伊波普献

受賞者の声

特別養護・養護老人ホーム
宮古厚生園　介護員
石垣（いしがき）　愛子（あいこ）

この度永年勤続30年の表彰を頂きました。

昭和61年4月に漲水学園に厨房職員として採用され25年間厨房業務に携わり平成23年、厨房の業務委託に伴いあけぼの学園介護員へと職種変更になり今年4月から宮古厚生園へ転勤となりました。初めての老人施設勤務で戸惑いながらも、上司、同僚の皆様のご指導とご協力、利用者様の明るさに支えられ日々の業務を楽しくこなすことが出来ています。本当に心より感謝いたします。

これからも初心を忘れず常に利用者様目線で質の高い介護を目指していきたいと思います。

障害者支援施設
北嶺学園　介護員
前泊（まえどまり）　真生（しんお）

平成10年4月都屋の里勤務、いしみね救護園、具志川厚生園、沖縄療育園、北嶺学園と異動し、20年が経ちました。ここまで、業務に従事出来たのは、先輩方や同僚の皆様のご指導、ご協力や家族、仲間の支えがあったからだと思います。又、利用者様の「ありがとう」の温かい言葉と笑顔が日々の励みになり今日に至っています。心より感謝いたします。これからも利用者様の園生活が、安心、安全で快適な生活の場となる様頑張っていきたいと思います。

地域における公益的な取り組み

命の学校～介護・福祉・医療の現場から、命を学ぶ～ 中間報告

事務局
企画課長
野田（のだ）　里子（さとこ）

9月より『命の学校』が開講し、この記事を書いている時点までに4回の講義が終了しました。　会場には、100人余りの受講者が集まり、毎回感じることは、その場が、講師と受講者の皆さんが作り出す何とも崇高な空気感に満ちていることです。

『命の学校』は、日々、命と向き合っている一流の方々をお招きし、今を生きるということ、働くということ、人と関わるということについて、講師が一番伝えたいことをお話ししてもらう講義となっています。

学長であり、講師の方々のホスト役を務められている樋口先生の語られる言葉が、「人の関心に関心を持つ」「自尊心を育む」こと。そしてこの講義の中で「講師の方々の生き方そのものから得たインスピレーションが大事である」、というお話しがありましたが、まさに毎回講師から紡ぎ出される本心の言葉を、受講者の皆さんはそれぞれの想いで受け取られ、暖かな、そして各々が勇気づけられる、そのような時間を過ごされているのではないかと感じています。

介護・福祉・医療の分野で、人間的魅力溢れる一流の講師の方々の存在に触れることができ、この分野の仕事に改めて大切な価値を見出すと共に、日常生活の中で、人の関心に深い関心を寄せることが、今の社会に必要とされていることだと感じました。

講義は全12回。これからの講師の方々のお話も、本当に楽しみです。

命の学校スケジュール

第1回	9月8日(土)	金城　敏彦	(沖縄県社会福祉事業団理事長)
		樋口　耕太郎	(トリニティ社長)
第2回	9月22日(土)	村瀬　孝夫	(よりあい代表)
第3回	10月6日(土)	高山　義浩	(中部病院医師・地域ケア科医長)
第4回	10月20日(土)	徳永　進	(野の花診療所院長)
第5回	11月10日(土)	藤田　次郎	(琉球大学医学部付属病院長)
		樋口　耕太郎	(トリニティ社長)
第6回	11月24日(土)	加藤　忠相	(あおいけあ代表)
第7回	12月8日(土)	奥野　修司	(ノンフィクション作家)
第8回	12月22日(土)	武元　康明	(半蔵門パートナーズ代表)
		樋口　耕太郎	(トリニティ社長)
第9回	1月12日(土)	金城　隆展	(学術博士・臨床倫理士)
		名嘉地　めぐみ	(医学博士・琉球大学医学部)
第10回	2月2日(土)	小山　珠美	(看護師・口から食べる幸せを守る会会長)
		樋口　耕太郎	(トリニティ社長)
第11回	2月16日(土)	飯田　史彦	(光の学校主催・経営心理学者・カウンセラー)
第12回	3月2日(土)	樋口　耕太郎	(トリニティ社長)

※開講時間：19:00 ～ 22:00　場所：沖縄大学

受講者の感想

地域ケアにおいても、沖縄の伝統的な玄関の無い中庭とか、あまはじ空間という、システムや秩序にのってこない曖昧な空間が、地域の見守りの人々と患者さんを優しく繋げているなと痛感しました。

インド、カンボジア、タイ、スーダン等、各地の医療現場を、時には命を危険に晒しながら経験された高山先生。講義の中で特に印象に残ったのは「秩序を求め、高齢者を施設のシステムに押し込むのは支援ではなく支配。人は支配には抵抗する」というお話でした。最も大切にしていることが患者個々の心であることに深く感銘を受けました。

徳永先生の講義は様々な人々との出会いや別れが次々と臨場感を持って表現され夢中になって聞き入りました。話しを聞きながら感じたのは、生命への敬意と一人一人に誠実に向き合う姿勢と包容力です。「どこで人は学ぶのか？」の問いに対し、「すべての出会いや経験が学びになる」ということを徳永先生に教えていただきました。

いろいろなことができなくなったり、思い出せなくなったりする不安の中で葛藤し、混乱していても、「自分が受け入れられている」という体験の積み重ねが安心に繋がり、穏やかな日常を送ることが出来るのだと良くわかりました。

介護の現場で、介護する側、される側というくくりではなく、人と人として繋がり、相手のできないところを助け合う。だから介護する側と思っていたのに、いつのまにか、自分が励まされたり、助けられたり、考えを導き出せたり。話の半分は涙でスライドの文字が見えませんでした。

「病気も人柄も生活様式も人それぞれであり、自由である」と、頭で理解していても実際に支援を行う際、人にあわせるのではなく、制度にあわせてしまうことがあります。誰にとっても有効なやり方や完璧な正解があるわけではなく、右往左往しながら相手の反応を待ち、「ふっとわく道」ができることを信じて関わっていく姿勢が、相手の幸せな人生の手助けに繋がるのだと思いました。

職員の語らい

脱・メタボ！

婦人保護施設
生活指導員
金城（きんじょう） 善史（よしひと）

健康診断で内臓脂肪が増えすぎて「要検査」。思い返してみれば、あの日に食べた食べ物が…と後悔しても遅い思い出ばかり。健康体を取り戻すべく、生活習慣の見直し、休みには朝早く子どもを起こし一緒に愛犬と散歩し「脱・メタボ」に向けて取組み中。「まだ、大丈夫だよ！」と思っている皆さん、元気で明るく楽しい職場を作るためにも日頃の体調管理には気を付けましょう！

大好き！モモ＆小雪♥

障害者支援施設
都屋の里
介護員
比嘉（ひが） 純子（じゅんこ）

「ただいま～」帰宅すると私を大歓迎して迎えてくれる愛犬たち。仕事やプライベートで疲れた日やちょっと嫌な事があった日。そんな日でも疲れた心と体を癒してくれる存在が私にはいます。

それが、ミックス犬のモモ（メス・6歳）と小雪（メス・6歳）です。6年前、縁あって我が家にやってきた2匹です。これまで病気をしたりして心配になることも多かったですが、今は2匹とも元気いっぱいです。

休日には、2匹を連れて公園へ散歩に行くのがとても楽しみです。毎日毎日、体全体で愛情表現をしてくれるモモと小雪です。

職場でも愛犬家とはお互いのワンちゃん自慢で盛り上がります。そこの犬好きのあなたも私と愛犬自慢で盛り上がりませんか？

トライアスロン完走への挑戦

特別養護・養護老人ホーム
宮古厚生園
介護員
川満（かわみつ） 寛人（ひろと）

私がトライアスロンを始めたきっかけは、子供の頃ボランティアに参加して「いつか出たいな」と思ったのがきっかけでした。

3年程前から取組みを開始、平成30年4月22日の第34回全日本トライアスロン宮古島大会に念願の出場が叶いました。

結果は、ラン30キロの関門に間に合わずリタイアという形でしたが、上司や先輩方、同僚や利用者様、友達や家族といった大勢の方がたくさん応援に駆けつけてくれました。

「生涯現役」を胸に今後もチャレンジし続け、私自身はもちろんですが利用者様を含め、周囲の方々に元気を届けられたらいいなと思います。

施設長リレーエッセイ

～さわやか野球チーム～

障害者支援施設
あけぼの学園
園長
平良（たいら） 吉昭（よしあき）

宮古には漲水学園、あけぼの学園、宮古厚生園等の職員で構成された職域野球チーム「福祉事業団宮古」があります。昭和52年に職員の親睦を目的に結成され、今年で41年目を迎え、「さわやか野球」をモットーに溌剌としたプレーで数々の実績を築き上げてきたチームです。

私と福祉事業団宮古野球チームの出会いは平成2年の4月にさかのぼります。小学から大好きな野球を続けてきたこともあり、あけぼの学園採用とともに福祉事業団宮古チームの一員になりました。当時は、俗に言うバブル時代、日本国がバブル景気に沸き、「よく働いて、よく遊ぶ」そんな時代風潮もあり、各職場で職域野球が盛んな時代でした。（宮古地区で約100チーム）

そうした中で、福祉事業団宮古チームは月～金曜日まで毎日のように園のグラウンドで野球練習を行っていました。それは学校の部活動を彷彿させ、「優勝して沖縄本島へ行くぞ！」を合言葉にして、陽が暮れるまで白球を追いかけていました。ある先輩職員は、野球練習をサボらせないために門の入口付近で待ち伏せを行うなどの熱の入れようでした。おかげでチームは地区大会を何度も制覇するような強豪チームとなり、チームが勝ち進めば進むほど夜の親睦会（オトーリ会？）も増え、奥方からは「野球と家族どちらが大事！」と揶揄されるほどでした。

しかし、野球を通しての仲間や先輩方との交流は、単なる野球談議ではなく、チームワーク、仕事の悩み、家庭問題、恋愛？等の多岐にわたり円滑な人間関係の構築と社会人として勉強させられる場でもありました。その家族的な繋がりは「事業団一家」とも呼ばれ、まさに今のOJT的な役割を持ち、私自身も大きく成長させてくれたと感謝しています。

時代の流れとともに、野球メンバーの高齢化と練習不足により勝率は急降下しましたが、今でも「さわやか野球」の精神は脈々と受け継がれ、宮古だけでなく八重山事業団職員とも交流試合・親睦会を毎年交互に開催して「さわやか野球」の輪を広げています。

施設だより

あさびめー※フェスタ

にしのもり保育園
主任保育士　仲盛（なかもり）　久美（くみ）

にしのもり保育園の運動会は子ども達の意見も取り入れ、あさびめーフェスタに決定しました。保育士一人一人の考えや、思いを出し合い、同じ思いで行事ができるように確認しました。あさびめーフェスタでは、子ども達一人ひとりが日頃園庭で楽しんでいる色々な遊びを中心に0歳児から5歳児までの発達段階に応じたプログラムを子ども達と考え、無理なく取り組める内容で行いました。当日は秋晴れのもと、0，1，2歳児は、泣かずに自分なりの表現をすることを楽しんでいました。3，4，5歳児では、竹馬、なわとび、電線ドラム等いろいろなことに挑戦しました。また、父母競技は園長賞のトロフィーもあり盛り上がりました。保護者の皆様にあさびめーフェスタの趣旨を理解していただけたこと、職員が一致団結し取り組めたことに感謝しています。これからも子どもに寄り添い、ワクワクする環境を造り保育を楽しんでいきたいと思います。

※「あさびめー」とは、八重山方言でみんなが集い楽しむ遊び場という意味。

作品展示会について

障害者支援施設　北嶺学園
管理課長　知念（ちねん）　正剛（まさたか）

平成30年10月27日（土）、小雨が降りそうな、曇り空の中、作品展示会は始まりました。開始前には、地域の方やご家族が来園していて、作品を見て回り、開始と同時にお目当ての商品を購入いただきました。農耕班では、台風の来襲により何度も被害をうけましたが、ネギやレタス、観葉植物をポットで作り、販売する事が出来ました。

北嶺カフェと称し、お客様に無料で、ぜんざいやスムージー、ホットコーヒーを振る舞い、ビーズ通しの実演、サンゴや貝殻を使ったフォトフレームつくり体験など、利用者、ご家族、地域の方々と触れ合う楽しい時間を過ごすことができました。又、父母会より様々な応援をいただき感謝いたします。これからも利用者、ご家族、地域の皆様へ信頼され愛される施設を目指してまいります。

笑顔の絶えない長寿祝い

特別養護・養護老人ホーム　具志川厚生園
生活相談員　當眞（とうま）　智夏（ちか）

9月14日に合同敬老会・トーカチ祝い、10月12日にカジマヤー・新百歳のお祝いが行われ、トーカチ（米寿88才）5名、カジマヤー（97才）5名、新百歳5名の利用者がお祝いを迎えられました。

ご家族の参加も多く、主役である利用者の素敵な衣装を身に着け、華やかな化粧姿の利用者を囲むご家族の嬉しそうな表情がとても印象的でした。また、職員がこの日のために心を込めて作った車イスの装飾、壁画の飾り付け等でお祝いを演出するなどの祝賀の雰囲気づくりで盛り上げました。

来賓にはうるま市長・社会福祉協議会副会長・天願自治会長・家族会会長が臨席され、舞台では美御座様・平良様の踊り、沖縄ダルククレアドール様のエイサー、職員による余興で大変大盛り上がりしました。

今回長寿祝いを迎えられた利用者が、次のお祝いを祝福できるようにこれからも職員一同頑張っていきます。

外出支援　ピクニック

医療型障害児入所施設沖縄療育園
児童指導員　酒井（さかい）　さわ子（こ）

沖縄療育園では一年を通して外出支援の「ピクニック」に取り組んでいます。10月には、ビオスの丘に行き、楽しい一日を過ごしてきました。

ビオスの丘には様々な動物がおり、利用者は自分から子ヤギに手を伸ばしたり、大きい水牛に驚いたりと、動物とのふれ合いを楽しみました。昼食後には湖水船に乗船し、湖面の涼やかな風に吹かれ、豊かな自然を満喫し、リラックスした表情が見られました。また、他の来場者の方が声をかけてくださったり、道を譲ってくれたり、ビオスの丘の職員の方々をはじめ、多くの方と触れ合う機会がありました。

ピクニックは3～4名の小グループ制です。園外に出ることで沢山の自然に触れ、季節を楽しんだり、地域の人と関わり、又、家族同士の交流を図るなど、園内では体験できない様々な経験をすることを目的として、各病棟、年に10回程実施しております。外出先での利用者の楽しい様子や笑顔、ご家族の「楽しかったね、ありがとう。」という声を張り合いに、今後も外出支援を通して、利用者が楽しく園生活を送れるよう支援していきたいと思います。